

第4回ドコモ杯南九州ジュニア・ラグビー交流大会（報告）

令和2年11月28日(土)・29日(日) 両日とも寒風が吹きつつも晴天に恵まれ、鹿児島県立サッカー・ラグビー場に中学生ジュニア・ラグビー達が集い、第4回ドコモ杯南九州ジュニア・ラグビー交流大会が開催されました。今回は、新型コロナウイルスの影響もありましたが、鹿児島県から6チーム、宮崎県から4チーム計10チームの中学生183名が参加し、開催することができました。開催に際し、各チームに検温やアルコール消毒などの御協力を頂き、感染対策を十分に行ったうえでの開催となりました。



<ジャンボリー大会 11月28日(土)>

ジャンボリー大会は全チームの交流と経験を目的としており、10分間という短い時間ずつでしたが、全チームが対戦を行いました。夏に3年生が引退してから、初めての大会のチームも多く、初々しさの中にもハツラツとしたプレーが見られました。

このジャンボリー大会では全試合を通して反則が少なかったチームを「フェアプレイ賞として表彰しています。今年度は全試合を通して反則の数が「2」と、とても少ない反則数でフェアプレイ徹したラサール中学校が受賞しました。

また、今回はドコモのICTイベントも同時開催され、選手各人がウェアラブルデバイスを身に着け、走った距離や運動量などを各チームの指導者がモニタリングすることができました。さらにAIカメラがゲームの様子を撮影し、会場に来られなかった保護者がインターネットで見たり、後日、チームの動きをチェックしたりすることができました。プロチームなどが活用するシステムを利用させてもらい、各チームの指導者だけでなく、選手・保護者も感激していました。



<カップ戦 11月29日(日)>

カップ戦は、昨年に引き続き、今年も A パート 5 チーム、B パート 4 チームに分かれ、各パート総当たりのリーグ戦を行い、各パートの優勝カップを競いました。

A グループ

A グループは、以下の 5 チームでカップを争いました。

高鍋西中学校(宮崎県)は、例年よりも一回り身体のサイズが小さく感じましたが、どの選手もランニングスキル能力が高く、相手 DF のギャップを見つけ走り抜ける姿は圧巻でした。今大会の最多トライ/ゴールのチームでした。



宮崎ラグビースクール(宮崎県)は、例年よりもチームとしての成熟度がこれからという印象でしたが、今大会が新チームとして初の大会ということもあり来年の夏へ向け、今後の成長がとても楽しみなチームでした。

鹿児島ジュニア RFC は、身体のサイズは大きく、縦にボール運ぶ能力は非常に頼もしく、何よりも、身体の大きな選手が長い距離を走りきる姿には、チームの指揮の高さと基礎基本をしっかりと練習している様子が伺えました。

鹿児島オールブラックスは、1年生主体のチームでしたが、個々のランニングスキルは非常に高く、今後身体の成長に伴いもっと身体を当てるようになってくると、より高いレベルで戦えそうに感じられる、今後の成長がとても楽しみなチームでした。

ライジングサン鹿児島は、FW と BK が一体となったアタック&ディフェンスをしていました。良い試合運びをするのですが、なかなかトライまで結び付けられませんでした。今後、今後の個人スキルの向上と試合経験で、より強くなれるチームだと感じました。

A グループは、大会最後の“高鍋西中学校 対 鹿児島ジュニア”が優勝をかけた決戦となりました。「走の高鍋西」対「圧の鹿児島ジュニア」で、お互いにプライドとプライドの戦いでした。試合開始直後の緊張が解けないなか、ファーストトライは高鍋西中のウイングが鹿児島ジュニアのディフェンスラインを切り裂きました。2 トライを挙げ、そのまま高鍋西中のペースとなるかと思われましたが、鹿児島ジュニアもディフェンスラインを修正しながらボールを縦へ縦へと繋ぎトライを奪い、3 点差まで高鍋西中を追い詰めました。しかし、高鍋西中のゴール前まで攻め込みましたが、ノーサイドとなり、高鍋西中学校が A グループ優勝を果たしました。



B グループ

B グループは、延岡市立東海（とうみ）中学校（宮崎）、鹿児島玉龍中学校、ラサール中学校、鹿児島ジュニア B の 4 チームでの戦いでした。

東海中学校は、昨年度 A パートを制していることもあり、開会式直後に「優勝カップを持って帰るぞ！」とキャプテンが叫んだのが印象的でした。



試合は、善戦するもなかなか勝てない苦しい試合運びでしたが、ジャッカルからのクイックスタートを意識的に行っていて今後の成長がとても楽しみなチームでした。

鹿児島玉龍中学校は、当日、初めて他チームのメンバーと合同編成を行ったチームではありましたが、女子選手がボールを持って走る姿や、小さい選手がタックルをスルスルとかわしながら走る姿にとっても勇気がもらえるチームでした。

ラサール中学校は、全体的に身体のサイズは大きくはありませんが、みんなで励ましながら、最後まであきらめることなく全ての試合でトライをとりました。

鹿児島ジュニア RFC B は、1 年生主体のチームでしたが、1 年生とは思えないプレーを見せてくれました。トライを取られるたびにお互いに修正点を話し合っている姿も見られ、今後の成長がとても楽しみです。

B パートは混戦が予想されましたが、結果的には鹿児島玉龍中が全勝で優勝を飾りました。鹿児島玉龍中は人数不足で、他チームから選手を借りなければならないというチーム事情にも関わらず、優勝を果たせたことは、改めてラグビーというスポーツの面白さを考えさせられました。



また、1 年生主体にも関わらず、鹿児島ジュニア RFCB チームが、2 年生たちに挑み、準優勝を果たしたことは、ひたむきに頑張る姿の大切さを改めて感じさせられました。



今大会は、新型コロナウイルスの影響もあり、各チームともに十分な練習や準備が出来ていなかったのではないかと思います。しかしながら、各チームとも、今出来る最高のラグビーを見せてくれ、最高の大会となったと思います。

また、大会の最後には、レッドハリケーンズのグッズをかけて恒例のジャンケン大会が行われ、大変盛り上がりました。グッズを手に入れた選手たちは本当に満足した様子でした。

今回、この最高の大会開催に際しまして、御協賛頂きました NTT ドコモ CS 九州鹿児島支社の皆様をはじめ御尽力いただきました関係各位に感謝申し上げます。今後とも、どうぞ宜しくお願いいたします。（中学委員長 阿部康夫）